

施策 No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	商工観光課	主管課長名	増淵 孝明
4-3	施策名	観光の振興	関係課	農林課、生涯学習課、都市整備課、企画課、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		桜川市に訪れる観光客	①1都、6県の人口	千人	見込値	43,285	43,385	43,485	43,585
	実績値				43,285	43,385	43,464	43,513	42,995
					見込値				
					実績値				
目的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
	交流人口増によりにぎわいが生まれ、経済が活性化している。	①観光客入り込み客数	人	目標値	350,000	360,000	370,000	385,000	400,000
実績値				304,000	336,254	352,380	101,121	143,445	
②イベント来場者数		人	目標値	50,000	55,000	60,000	65,000	70,000	
			実績値	45,000	50,000	55,000	200	400	
③お土産品開発数		件	目標値	2	2	2	2	2	
			実績値	2	5	2	1	4	
④観光協会会員数		人	目標値	160	170	180	190	200	
			実績値	154	183	186	187	180	
			目標値						
			実績値						
成果指標設定の考え方	①観光客の動向 ②交流人口による地域のにぎわい ③経済への貢献度 ④観光に関心を持つ人材の発掘・育成								
成果指標の把握方法と算定式等	①茨城県観光客動態調査による数値(真壁のひなまつり、桜祭り、真壁祇園祭、みかん狩りを含む)とキャンプ場2カ所の利用者数 ②SAKURAフェスティバル、納涼大会、地域・市民主体によるイベント等の来場者数(岩瀬駅前夏祭り、かつたて祭り、十三夜祭、まかべ日和、秋さんぼ等) ③経済活動を意識した観光客向けお土産品の開発件数 ④観光協会の会員数								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①観光客入り込み客数は、前年度101,121人に対し令和3年度は143,445人で42,324人上回った。 ②イベント来場者は、前年度200人に対し令和3年度は400人で200人上回った。 ③お土産品開発件数は、前年度1件に対し令和3年度は4件で3件上回った。 ④観光協会会員数は、前年度187人に対し令和3年度は180人で7人下回った。 ①～②については、新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等が中止になったことが大きな要因となっている。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①観光客入り込み客数は目標値400,000人に対し実績値143,445人と目標値を下回った。 ②イベント来場者は目標値70,000人に対し実績値400人と目標値を下回った。 ③お土産品開発件数は目標値2件に対し実績値4件であり、目標値を上回った。 ④観光協会会員数は目標値200人に対し実績値180人であり、目標値を下回った。 ①～②については、新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等が中止になったことが大きな要因となっている。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和3年度に貢献した事業は「プロモーション事業」、「山桜保全事業」、「山桜景観鑑賞施設検討事業」であった。 「プロモーション事業」は、26事業所68品がさくら川百貨選定品として認定された。さらに、同選定事業所の販路拡大、商品価値の磨き上げとしてさくら川百貨ブラッシュアップ事業を行い、千葉県で開催されたSMTS2022に出席、さくら川百貨のPRを行い、他県に向けた商談の機会に繋がられた。 「山桜保全事業」は、ヤマザクラの保全、管理等を実施する11団体に対し、ヤマザクラの苗木125本を支援し、ヤマザクラの保全管理や文化の醸成などに繋がられた。 「山桜景観鑑賞施設検討事業」は、「日本を代表する山桜の里」を目指す桜川市の中で、特に山桜が有名である平沢地区・高峯周辺への誘客に繋げるため、平沢地区に高峯見晴デッキを整備した。	主人公の成長とともに四季折々の季節に合わせて、市の観光名所を紹介する観光PRポスターの全12枚を題材とした、ショートストーリーを広く一般の方々より募集し、その中の優れた作品をもとに市のPR動画作成し、桜川市の魅力・知名度アップへ繋げる。 今後も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、各イベント開催についての支援等を実施する。 自転車の活用の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図る為、「自転車活用計画」を策定予定である。